



授業（非常勤）でキャンパスを訪れるたびに、その施設の充実と整備（写真・2）に驚いて

【川越キャンパスの今昔】 私は、昭和40（1965）年に東洋大学工学部に入學し、川越キャンパスで（大学院修士課程を含めて）6年間を過ごしました。キャンパスを離れてから50年の時間が経過しました。最近の15年程では、校友会の支部総会、理工学フォーラム、

副支部長 黒井 登起雄 (昭和46年院修士木)

《寄稿》 川越キャンパスの今昔と 思い出のキャンパス初めて物語(1)

東洋大学校友会埼玉県東部支部会報《リーフレット版》 彩の国さいたま 第8号 作成/2021年8月20日 (一社)東洋大学校友会 埼玉県東部支部 広報部

この「彩の国さいたま」リーフレット電子版は、校友会埼玉県東部支部の最新の活動状況、企画案内、会員の動向などの情報を、支部会員の皆様に年数回、不定期でお届けするものです。速報内容は、支部役員および会員の皆様から頂戴した情報を写真とともにまとめています。なお、リーフレット版は、画像電子版として作成してありますので、東洋大学校友会HPの支部ブログにも掲載することを基本にしています。支部のメンバー登録会員の皆様にも配信します。奮ってお読み頂きたい存じます。 支部広報担当(副支部長) 黒井 登起雄



東洋大学工学部キャンパス全景(昭和44年(1969年)卒業アルバムより複写)

います。在学時の川越キャンパスは、設置認可(昭和36年認可)間もない時期で、写真1および写真3に示すように、松林、雑木林を切り拓いた鯨井中野の台地に、講義棟(教室)、実験棟、平屋建ての学生食堂、学生寮などの建物や、野球場、ラグビー場、陸上競技場などの運動施設が整備されていましたが、周辺道路は未舗装(構内道路は舗装済みでした)で、キャンパスも雨が降ると泥塗れ、冬から春先には、砂塵、土埃が舞う環境でした。最寄り駅の東武東上線「鶴ヶ島駅」からの徒歩15〜20分の道路

写真-1 思い出の川越キャンパス(工学部施設整備初期)、1969年

も未舗装の砂利道でした(自動車の土埃、雨時の泥はね、暑い時期の鶏糞の匂いに悩まされました)。現在の川越(理工学部)キャンパス*1は、学部学科の増設・移転もあり、あらゆる建物・施設が更新され(写真2)、緑の多い綺麗な環境に変わりました。整備されたキャンパスにおける私の印象に残る場所は、「こもれびの道(写真2)」と「こもれびの森」です(汗を流した「テニスコート」は懐かしいところです)。「こもれびの森」は、以前、「工学部グラウンド」として学生が野球、サッカーなどで遊んだとこ



写真-3 草創期の川越キャンパス(1969年頃、陸上競技場とラグビー場から望む)



写真-2 整備された最近の川越(理工学部)キャンパス(2018年)



写真-4 県道沿いの川越市吉田の下宿舎入口における記念写真? (1965年2月頃、左側2名が4年卒業、1年生は中央の私と伏見さんだけでした)

ろです。「こもれびの道」の場所は、大きな松の木、雑木林が密集したところで、学生時代の「測量実習」の授業で、10cm以上の太さの立ち木を一本ずつ平板測量によって測定したことが思い出されます。「こもれびの道」は、新しく造られた「新西門」からの通学路で、新緑やもみじを感じさせ、憩いと初夏の涼しさ、秋の爽やかさを醸し出す道になっていました。昔は、「西門」(現在の旧西門)が鶴ヶ島駅からの通学路で、正門でした。「新西門」付近は、異なる印象の場所でした。

*1 東洋大学川越キャンパス開設五〇周年記念誌 平成23 (2011) 年10月

【川越キャンパスの学生生活】

新潟県五泉市生まれの私は、昭和40(1965)年4月に、工学部(土木工学科)に入学し、野球場から東上線を越えた地区の下宿舎を初めての一人暮らし場所と定め、学生生活をスタートさせました(学生9人で、朝・夕食付の下宿舎でした)*2。新入生は2人で、3、4年生ばかりでした(写真・4)。当時は、周辺に多くの下宿舎がありました。下宿生活では、土日の買物、野球、ソフトボールなどの運動、川越市街への遊び(たまにパチンコ)など比較的楽しい時間を過ごしたように思います(洗濯機がない下宿で、洗い物は大変でしたが!)。

大学1、2年次時における教養課程の授業は、初めて、かつ、慣れない一〇〇名以上の大人数授業で、大変でした(眠

くなる時間が多くなったことを記憶しています)。また、川越キャンパス(工学部)は、男子学生が大多数(ほぼ男子)でしたので、昭和40年6月頃の多くの白山の男子、女子の学生が来る体育実技の授業は珍しい風景でした。そんなある日、「青春歌謡歌手の高石かつ枝が体育の授業で川越に来る」などの噂が広がったことなども思い出されます。昭和40年(1965以降)の時代は、ベトナム戦争反対の政治闘争(反戦集会、1967年の新宿騒乱)、その後の学生による大学管理運営・学費値上げに対する学園紛争(1969年の東大安田講堂事件)など学生運動が激しい状況でした。キャンパス内も、タテカンが多く立て掛けられ、騒然としたキャンパスでもありました(性能の悪いハンドスピーカーによるアジ演説)。し



写真-6 工学部一号館(通称L館)前の屋外実験場(1969年頃、中央:同級生の故高田清美さん、左2人目:故笹尾事務職員、左:筆者)

かし、工学部は、都内から離れていること、ノンポリ学生が多かったこと(私も思想闘争などに無関心なノンポリでした)などで都内大学に比べて静かな環境と云えました。

2年生以降の専門課程では、工学教育に「産学協同」が掲げられていましたので、実験・実習のレポート作成に四苦八苦していたことが思い出されます(夏場の冷房の無い下宿で、汗を拭きながら、かなり真面目に勉強していました)。2年次からの夏休み前の「測量実習」(寄居町鉢形城址宿泊)、長瀬における「地質実習」(長瀬町青年の家宿泊)、3年時(昭和42年)の夏休みの道路公園(名古屋建設局、岡崎舗装事務所)へ長期間(720~831)の「現業実習」(東名高速道路の豊田IC、岡崎ICにおけるアスファルトコンクリート舗装工事)などは、充実した思い出として記憶に残っています(布団持込みで岡崎市の公団寮に、東海道線急行に乗って向かいました)。「現業実習」は、真夏、猛暑の名古屋地域で、厳しくもあり、リクレーションや見学(蒲郡キャンプ、六甲山ドライブ)などの楽しい時間を盛り合わせた長期実習でした。授業以外では、ほぼ毎日、硬式庭球部に所属してテニスコートで練習等を行っていました(日焼けで真っ黒でした)。校友会長の神田雄一氏(工学部スキー部!)とは、クラブの部室が隣同士で、学科が違いますが、同級生でした。また、4年次および大学院修士課程にお

いては(写真・6)、主に卒業研究および修士論文の研究や授業(物理学)補助員などで大変充実した日々を過ごしたように思います。

*2 当時の休暇中の帰省は、上越線の急行「佐渡」、夜行急行「天の川」を利用するのが常でした(特急「とき」による帰省は昭和45年以降と記憶。上越新幹線の利用は昭和57年以降と記憶しています)。

【エピソード】

工学部(川越)キャンパスが昭和36(1961)年に開設されてから半世紀以上(60年)が経過して、東洋大学は、工学部の一学部から学部学科の増設・移転などにより理工学部キャンパス(川越)として発展を続けています。更なる発展を祈っています。この度、50年前の工学部(川越)キャンパスを思い出し、キャンパス草創期当時の工学部施設と環境および私の体験した50年前の学生生活の思い出を記してみました。現在の川越キャンパスの「アオノリユウゼツラン」(植替えられて現在の場所にあります)が50年前にキャンパスのA館前庭のものか(?)ということも記録(卒業アルバム写真)で判りました。なお、『50年前の川越キャンパスの思い出』を多くの校友の皆様から頂戴できれば、有難いところです。

今後は、「始まり(初めて)物語」として、①東洋大学工学部の『土木会』と『土木同窓会』の始まり(会誌と機関紙による紹介)②東洋大学の「硬式庭球部の始まり」(テニス部誕生の経緯と、硬式庭球部とテニス部の始まりと草創期の活動を「部報」の創刊号などでの紹介)を予定しています。参考になる情報としたいと思いますので、お待ち下さい!!